

Ⅱ—1 品川地区 POD ショールーム群

調査先：

キヤノン	：プロダクションシステムセンター
コニカミノルタ	：デジタルイメージングスクエア
リコー	：リコープリンティングソリューションスクウェア
住 所	：東京都港区港南二丁目 16 番 品川駅港南口周辺地区
開催日	：2008 年 6 月 17 日
参加者	：11 名
記	：瀧本 清*、豊吉 直樹*、坂津 務*

1. はじめに

当委員会では、注目技術の技術開発やビジネス展開を行っている研究所・企業の調査・見学会を行い、広く会員会社に紹介していく活動を行っている。

近年、プリントオンデマンド (Print on Demand) 市場が活況を呈しており、各社、活発に新製品を投入するとともに、相次いでショールーム施設を開設している。特に、今回視察を行った品川駅港南口のオフィス地区においては、半径約 150m 内に POD ビジネスの大手 4 社、キヤノン、コニカミノルタ、富士ゼロックス、リコーが大規模な拠点を構えている。どこも新製品を展示するだけのショールーム施設では無く、ビジネスソリューションを提案し情報発信を行う施設となっている。

昨年、富士ゼロックスのエピセンター (epicenter) の見学会を行ったのに引き続き、本年はキヤノンのプロダクションシステムセンター (PSC)、コニカミノルタのデジタルイメージングスクエア (DIS)、リコーのリコープリンティングソリューションスクウェア (PPSQ) の見学会を行ったので報告する。

以下に訪れた各社施設のデータを記す。(訪問順)

■キヤノン

プロダクションシステムセンター (PSC)
PRODUCTION SYSTEM CENTER
住所：東京都港区港南 2-16-6
キヤノン S タワー 6 階
電話：03-6719-9551
営業時間：平日 10:00~17:00 <予約制>
<http://canon.jp/s-tower/>

■コニカミノルタ

デジタルイメージングスクエア (DIS)
DIGITAL IMAGING SQUARE
住所：東京都港区港南 2-16-4
品川グランドセントラルタワー 4 階
電話：03-5769-7791
営業時間：平日 10:00~17:00 <予約制>
<http://konicaminolta.jp/pr/dis/>

■リコー

リコープリンティングソリューションスクウェア (PSSQ)
PRINTING SOLUTION SQUARE
住所：東京都港区港南 2-16-1

* 技術調査小委員会委員

品川イーストワンタワー 4階

営業時間：平日 10:00～17:00 <予約制>

(当該施設は2008年12月に閉鎖となっています)

2. 各社ショールームの解説

各々のショールームについて訪問順に解説する。基本的に各社の委員が自社のショールーム施設についての取りまとめを担当した。

2-1. キヤノン

プロダクションシステムセンター (PSC)

2-1-1. 施設概要

キヤノンSタワー6階にあるプロダクションシステムセンターは、キヤノン独自の最新技術を投入したプロダクション機器を紹介すると同時に、ITサービスを効果的に活用した新たなプリンティングソリューションを提案することを役割としている。そして特にユーザーに対するプリント検証の場の提供を行っている。

「見て、触れて、学んで、セミナー・デモンストレーション」をキャッチフレーズとしている。

プロダクションシステムセンターが品川のキヤノンSタワー内に開設されたのは2006年11月であり、その後2008年4月には大阪にも同様のセンターが開設された。なお、品川、大阪では対処しきれない、複雑で難度の高い検証は幕張統合検証センターにて扱われている。

利用目的の多くがユーザーのデータ検証に関わることから完全予約制とされており、このため1日1社ないし2社の対応に限られている。検証とサンプル出力に2～3日を要することもあるという。

2-1-2. 施設紹介

6階フロアでエレベータを降りるとすぐにアプローチゾーンとなっている。アプローチゾーンはサンプルボード等が設置されたユーザーの出迎えスペースであり、ここを介して、デモンストレーションゾーン、

トレーニングゾーンそれぞれに進むようになっている。

1) デモンストレーションゾーン (DEMONSTRATION ZONE)

最新のプロダクション機器のラインアップを配備し、通常のデモンストレーションに加え、マテリアル検証、ユーザーのデータ検証などに幅広く対応している。

センター内の設置機器は以下のとおりである。

① プロダクション複合機

「imagePRESS C7000VP」

「imagePRESS C1」

② モノクロコピー・複合機

「iR7105i」

「E125 (デジタルプロダクションシステム)」

③ 大判プリンター

「iPF9000S」

「iPF8100」

具体的な検証内容は用紙選択の検証とカラーマネージメントが大部分であるという。特にカラーマネージメントの焦点は客先で同じ”絵”が出せるか否かにつきるようで、ユーザーからは「モニターどおりに出力」との要請が極めて多いという。品質のチェックには標準光源が必要なため、そうした設備も設置されており、サンプルボードの色温度も5500Kに維持されている。

2) トレーニングゾーン (TRAINING ZONE)

「imagePRESS C7000VP」、「Digimaster」、「iR7105」シリーズを購入したユーザーへの操作指導・トレーニングを、実機を操作しながら行うゾーンである。

このほかPODセンター (POD CENTER) が併設されている。ここではキヤノン製品群による印刷物の内製を行っている。その実務を通して「企業内印刷」のニーズ把握とビジネスノウハウの獲得を目指している。いわばプリントオンデマンド (POD) を実践するプリントサービスの事業モデルとなっている。

2-1-3. POD市場の状況について

事前の質問事項に対する回答も交え、POD市場の状況についてお話を伺うことができた。以下にその概要を記す。

1) POD の位置付け

POD をどう位置付けるかという点について、4 つのパターンが見られるという。

① オフセット印刷を持つ総合印刷業

POD はラインナップの一環、営業の品揃えの 1 つと考えられている。収益は期待されていない。

② オフセット印刷を持つ中堅印刷業

各社ごとに POD を独自に位置付けている。

③ オフセット印刷を持たない中堅印刷業

POD の需要の大部分を押さえている。しかし競争は極めて激しく、少数がこの地位を占めるのみである。

④ オフセット印刷を持たない印刷業

小回りの利く利点を生かし、Web でニーズを拾い上げているのはこの種の会社が多い。

これらの分類、それぞれの特徴には頷けるものが多々あった。

2) POD のコストについて

POD 市場で優先されるものとしてコストの占める部分はやはり大きい。そのため、POD を単に印刷の延長と位置付けている顧客は導入に消極的だという。

「印刷」に対する EP (通常電子写真の略として用いられるが、ここでは特に Electro-Printing と言い換えられていたのが印象的であった) の弱点も「コストの壁」が真っ先に挙げられたが、これは印刷が「後加工」を含め成立していることに起因している。もともと EP は即時性、局所性、部分的要請にこたえることで成立していたものであり、後加工は考慮の外であったことによる。コスト以外のものとして、EP の画質が印刷職人の納得感を得難いことも挙げられた。とはいえ顧客の大部分は納得している可能性もあり、この辺りが「コストの壁」克服の狙い目なのかもしれない。

印刷と POD の分岐点に関しては、よく言われている通り、印刷コストと緊急性が指摘された。前者は版の有無に起因する印刷枚数であり、今日 120~300 枚と言われている。後者は今日欲しいのか、それとも明日まで待てるのかということであり、緊急性の高い需要に答えるものとして POD が選択されている。

POD の意外な例として、マニュアル作成が挙げられ

た。例えば紛失等による追加要請や各国対応への変更等 1 冊単位の印刷もなされており、この需要が意外に多いのだという。通常 B5 版のマニュアルを B4 版もしくは A3 版へ拡大するという需要もまた意外に多いとのことであった。

3) 環境対応

環境対応に関しては RoHS 対応が必須との認識であった。ヨーロッパ各国の「エコロジー」に対する要求は極めて強く、今後のキーファクターとなりそうである。POD にコストとエコでインクジェット機器が採用されることも現実のものになりつつあり、電子写真にとっては危機感に似たものも感じられた。

2-1-4. 謝辞

プロダクションシステムセンターの運営を通して日ごろから肌で感じている POD の状況をうかがい知ることができ、また意外な POD 市場についても認識を新たにできた。見学にあたり、いろいろお世話いただいたキヤノンマーケティングジャパンの皆様にご礼申し上げます。特に事前にお問い合わせした質問事項にも丁寧にお答えいただいたことに感謝いたします。

2-2. コニカミノルタ

デジタルイメージングスクエア (DIS)

2-2-1. 施設概要

コニカミノルタの DIS は、品川駅港南口よりスカイウェイで徒歩 3 分の品川グランドセントラルタワー4階に 2007 年 9 月に開設された。スカイウェイのフロアから 4 階までは DIS 専用の直通エスカレーターが設置されており、受付までスムーズにアクセスできる。

DIS は拡大するデジタル印刷、ソリューションビジネスに対し、具体的な課題解決、ソリューション提案を行っていく POD ビジネスの情報発信の拠点の役割を担っており、「オンデマンド印刷の最先端ソリューションを、今、あなたの元へ」をキャッチフレーズとしている。

400坪強の広いスペースは単なる自社製品の商談の場では無く、パートナー企業とも連携して、電子入稿や組版ソフトなどプリンティングの前工程、後工程を含めた総合的なソリューションを提案していく場となっている。お客様の個々の課題に対して具体的なソリューションを提案する8つのコーナーを中心に、トレーニングルーム、セミナールーム、リモートセンターなどを備えている総合的な施設である。

非常にオープンな印象であり、顧客とWin-Winの関係を築き、POD市場全体を発展させていこうというコミニカルな取り組み姿勢が強く感じられた。

2-2-2. 施設紹介

展示機でのデモを含め、いくつかのコーナーを実際に体験することができたので、紹介する。

1) Inline Finishing

高速モノクロ機「ON DEMAND PUBLISHER 105e」を用いて、データ入稿からくるみ製本された冊子が出力されるまでのデモを見せて頂いた。インライン製本システムを中心に、分散型のオンデマンド印刷ソリューションを提案するコーナーである。

2) Print Workflow Solution

パートナー企業各社のワークフローサーバーが幾つも並んでおり、オフセット印刷とデジタル印刷が併用される商業印刷のハイブリッドワークフロー環境を実現している。上記のインライン製本のデモは、本コーナーでの電子入稿から組版、ジョブチケットの編集、発行を経て行われた。

3) Enterprise Solution

コンテンツ配信やPOP制作など特殊用途のソリューションを提案している。遠隔地(カナダ)のコンテンツサーバーにアクセスし、当日のUSA TODAY誌をリアルタイムに出力するというデモが行われた。

4) Direct Marketing

One to Oneマーケティングビジネスの高付加価値化を支援するコーナーである。ここには高速フルカラー機「ON DEMAND PUBLISHER C65N」が設置されており、パートナー企業のソリューションと連携し、個々の顧

客ニーズに合わせたダイレクトマーケティングの提案を行っている。

ソリューションのコーナーには、その他にプリプレス、グラフィックアーツ顧客向けのカラマネージメントシステム等を提案するGraphic Arts Solutionコーナー、連帳紙とカット紙のハイブリッド印刷を提案するTransaction Printingコーナーなどがある。

5) リモートセンター

内部にはリモートセンターが併設されており、プロフェッショナル顧客専用で365日体制でリモートサポートを行っている。

6) トレーニングルーム

実機を用いて機器導入後のユーザーや販社サービスマンのトレーニングができるスペースとなっており、サービス体制を支援する機能を備えている。

7) セミナールーム

ロビーの並びには、最大収容人員90名、2台のプロジェクターを備えたセミナールームが設けられている。代理店会議、新製品説明会などの内部での利用に留まらず、「デジタルイメージングスクエア・セミナー」と称した外部講師を招いての定期的なセミナーやマーケティングの講座、各種のショーの報告等が行われている。ここでも広く情報発信を目指す姿が鮮明に打ち出されており、あらためてオープンな印象を感じた。

2-2-3. 謝辞

見学がDrupa2008の翌週となつてしまい大変お忙しい時期でしたが、DISのご説明、ショーさながらのプレゼンテーション、実際のソリューションのデモ等を準備して頂くことができました。コミニカルタビジネステクノロジーズ(株)営業本部の中島様、プレゼンテーション、アテンドをして頂いたコミニカルタビジネスの皆様方に深く御礼を申し上げます。

2-3. リコー

リコープリンティングソリューションスクウェア (PSSQ)

2-3-1. 施設概要

PSSQ は品川駅港南口からすぐの高層ビルである品川イーストワンタワー4階に設けられており、遠方からのお客様にもアクセスが便利な場所に位置している。

日立グループで高速プリンター事業や、コントローラーやソリューション事業を展開していた日立プリンティングソリューションズ株式会社がリコーグループに入り、リコープリンティングシステムズ株式会社となった経緯もあり、PSSQには日立製品も設置されている。

高信頼性・高速プリントなどのメリットがあるメインフレームプリントシステムであるが、ベンダーの固定化や導入費/保守費が高いなどの理由で、近年はオープンプリントシステムへの転換が進んできている。そのようなお客様に対してシステムを提案する際の「移行性の検証」や「いろんなプリンターを試してみたい」という要望に対応した施設として、2005年1月にPSSQが開設された。単なる商品の展示ではなく、より実践に近い形態でプリンティング業務を体験できる場を提供している。

PSSQには3つの特色があり、1つ目は、実際に導入するプリンターのデモが可能な点で、導入前にお客様の目で確認していただくことができる。2つ目は、お客様向けに勉強会などを開催することができる点で、システム導入前の事前トレーニングが可能である。3つ目はカスタマイズ機能の開発環境を提供している点で、システムの構築や提案の為の評価をすることができる。

2-3-2. 施設紹介

PSSQは展示・デモ室、セミナー室、応接室、会議室を保有し、前述のようにデモンストレーション、セミナー、開発、テスト/評価、トレーニングを行うことができる。月平均で100件程度のイベントが開催され、来場者は300名以上になるとのこと。

フロア面積は598m²(181坪)で展示・デモ室が217m²(66坪)を占める。

展示・デモ室にはモノクロレーザープリンター、連続紙モノクロレーザープリンター、インパクトプリンター、デジタル複合機、カラーレーザープリンター、サーバーなど20台以上が設置され、ヘビーデューティー、ライトデューティー、分散・帳票ソリューションの3つのゾーンで構成されている。いずれの機種でもデモが可能な状態となっており、今回は実際に幾つかの機器で印刷を体験してきたので紹介する。

・リコー「IPSi0 9301 Pro」：中速モノクロ機(92ppm)

多様な用紙に対応しており、近年請求書などに利用されるケースの多い圧着紙2つ折りの郵便物も印刷することができ、さまざまな業種で活用できるとのこと。

・リコー「IPSi0 SP 9500 Pro」：高速モノクロ機(156ppm)

片面/両面ともに、毎分最大156ページの極めて速い印刷スピードを実現している。用紙ジャム発生を防止する為に空気圧で給紙するエアピークメカニズムや印刷を止めないトナー補給機構などを有する。また、給紙トレイおよび排紙スタッカーは自動で切り替わるので一度に大量の用紙を給排紙することができる。スタッカーは取り外し可能なバスケットとなっているので、そのまま持ち運びが可能で、荷崩れがなく運搬作業が容易になるとのこと。

・リコー「LB-F100A」：連続紙モノクロ機(100ppm：A4換算)

クラス最小のコンパクト設計なので、スペースの限られたオフィスでの設置が容易である。また、大型液晶タッチパネルによって操作がし易くなっている。

・日立「H-6C17」：連続紙モノクロ大量高速機(約331ppm：A4横用紙換算)

短時間大量出力業務に適しており、自治体等で毎月の請求書発行や帳票類の作成などで使用されているとのこと。

・リコー「KD38A」：ドットラインプリンター(縦横120dpi・毎分530行)

高品位(180dpi)、通常(120dpi)、高速(90dpi)

の印刷モードを用意している。また超高速印刷モードも装備している。新しい印字機構の搭載によって縦方向の間引き印刷が可能になり、縦横 120dpi のより高速な印刷を実現した。また、防音効果が高く、騒音は驚くほど小さい。

2-3-3. 謝辞

PSSQ は特に POD にフォーカスした施設ではなく、今回は基幹業務用の高速プリンターの見学ということでお願いしました。この分野においてソリューション提案がいかに重要と考えているかを感じ取ることができました。リコープリンティングシステムズ(株)システム販売本部の松浦様、(株)リコー MFP 販計室の森様、渡邊様には大変お世話になりました。深くお礼を申し上げる次第です。

3. 終わりに

今回、訪問した 3 社のショールームは各社で少しずつ位置付けが異なっていたが、昨年のエビセンターも含めて総じて感じられることは、プロダクトプリンティング市場においては、オフィス市場、SOHO 市場とは異なり既に箱売りの世界では無くなっているということである。出力機器の性能向上もベースとして必要であることは言うまでも無いが、今後はワークフローを改革するようなソリューションの提案力がますます重要となってくるのが感じられた。

今年は、国内としては最大の POD のショーである JGAS2009 が 10 月 6 日より 5 日間の日程で、東京ビッグサイトにおいて開催される。是非、足を運んで POD ビジネスの最先端に触れて頂きたい。

以上

禁 無 断 転 載

2008 年度「ビジネス機器関連技術調査報告書」 “Ⅱ-1” 部

発行 2009 年 3 月
社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会 (JBMIA)
技術委員会 技術調査小委員会
〒105-0003 東京都港区西新橋三丁目 25 番 33 号 NP 御成門ビル
電話 03-5472-1101(代表) / FAX 03-5472-2511